

令和四年度 大学院人文科学府博士後期課程第2期入学試験問題

(日本史学)

次の一～四の設問全てに答えよ。但し、解答は全て縦書きとすること。

一 次の史料を読み、設問(一)～(三)に答えよ。なお、出題にあたり、漢字については現行通用の漢字を用い、変体仮名は現行の平仮名を用いた。また、適宜、読点を施した。

猶々、大将四郎家迄もやき、四郎迄も我等手へ討捕申候間、可御心易候、已上

二月十三日之御状拝見申候、其地相替儀無之候由珍重存候、有馬の儀、はや可有御座候間、具不申入候、去月廿七日、鍋嶋請取候二の丸の出丸、明退候に付て、仕寄迄よせ候とて、塀表へ鍋嶋人数つき申候により、我等・立花請取の三の丸、両手にて乗取申候、二の丸は鍋嶋人数はかり御座候、我等もの共は三の丸打通り、二の丸海手の方やきたて、本丸へ押詰、則、同日に本丸乗取申候、我等者共手負死人式千二三百御座候、おしきもの共迄もころし候よし、不穩儀共候、可有御推慮候、本丸にちいさき出丸共御座候に、一揆共少々のこり居申候半、明る廿八日に諸手より乗取申候、爰元首尾よく仕廻申候間、可御心安候、定て彼地之様子、其元にて色々取沙汰可申候、はやきおそき段は、上使御存之所に候間、不及申入候、恐惶謹言

細 越中

三月五日

忠利 (花押)

筑主水様

御報

(「筑紫主水宛細川越中守忠利書状」早稲田大学所蔵)

- (一) この史料の作成年を推定せよ。また、そのように推定した理由について記せ。
- (二) この史料の内容を解釈せよ。
- (三) この史料の歴史的意義について、自由な観点から論ぜよ。

二 近世における思想史の流れを踏まえ、「鎖国と開国」をテーマとした小論を記述せよ。

三 次の史料は「海東諸国紀」に記された「筑前州」の記事である。これを読み、設問(一)～(三)に答えよ。

著作権上の理由により、WEB公開版では、問題文より削除した。

(島原松平文庫蔵)

(一) 「海東諸国紀」を説明せよ。

(二) 史料中には、日宋貿易等において日本から輸出された産物が登場する。その産物名と貿易史上における意義について論ぜよ。

(三) 史料全文を読み下し、正確に解釈せよ。

四 次の史料(①)～(③)は、「松平伊豆守家臣ニ被相渡候書付」(国立公文書館『雑記事』所収)である。この史料の②の部分について、釈文を作成せよ。但し、漢字及び変体仮名は、現行通用のものに改め、適切な位置に句読点を補うこと。

①

②

著作権上の理由により，WEB公開版  
では，問題文より削除した。

著作権上の理由により、WEB公開版では、問題より削除した。